

経営会議の内容

件 名	(仮称)「健康都市 やまと」人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
所 管 部	政策部
日時・場所	平成28年 2月 4日(木) 16:00～ 17:15 政策会議室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり計画部長、都市施設部長、病院事務局長、消防長、教育部長、総合政策課長
提 出 理 由	まち・ひと・しごと創生法に基づく、地方版人口ビジョン及び総合戦略を策定するにあたり、その内容について了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 - 希望出生率は何を表すもので、合計特殊出生率との違いは。 (所管部) 希望出生率は、人々の結婚や出産の希望が実現した場合を前提として見込まれる合計特殊出生率を指す。算出方法は国から計算式が示されている。 - 総合戦略に位置づけられる基本目標を達成するための施策について、今後追加や修正は行うのか。 (所管部) 国からは、基本的に今回の戦略は、平成27～31年度を期間とすることが示されている。国の戦略についても、すでに一部細かい部分であるが修正がされていることから、今後変更を検討する可能性はある。 - 総合戦略については第8次総合計画との整合を図るとのことだが、施策の整合はどうか。 (所管部) 総合戦略に掲げる施策は第8次総合計画に包含されるものとして整合を図っていく。 - 事業所内保育所について、子育て支援制度に基づく領域は今後も市として設置支援は行っていく一方で、企業側へのアプローチも必要と考えるがどうか。 (所管部) 市民討議会でも意見があった施策であり、今後の国の動向を見極めながら推進していきたいと考えている。 - 市民意見公募手続を実施する際には、立地適正化計画についての簡単な説明を付け加えた方が良いかと思う。 (所管部) 承知した。 - 人口ビジョンが2060年までと長いスパンとなっているが、見直しを行う予定はあるか。 (所管部) 国からは2060年までを対象期間とするよう求められている。見直しについては、現時点で予定していない。 - 総合戦略の基本目標Ⅰとして、「結婚から出産、子育てが楽しくなるまち」とあるが、現在、家族形態の多様化が進んでいる。先日LGBTに関する講演会も市で開催したところでもあり、また、養子を迎えて家庭を築く方々もいる。記述について、工夫できないか。 (所管部) その点については承知しているが、今回の総合戦略では自然増につながる施策を中心に考えており、出産の希望をかなえる取り組みは大切にしたい。総合計画であれば、家族形態の多様化に関する記述はもちろん必要となるが、人口減少に歯止めをかける性質の総合戦略の趣旨を踏まえると、現在の検討内容にしておきたい。 - 基本目標Ⅰの個別目標2①「パパ・ママが働くのをサポートする」とあるが、「働くパパ・ママをサポートする」の方が適当ではないか。 (所管部) 検討する。

《次ページに続く》

- ・基本目標Ⅰの個別目標３①に「スポーツやイベントの開催等による出会いの場の提供」とあるが、スポーツやイベントを出会いの場の提供のために開催するようなニュアンスとなっている。表現について検討してはどうか。
（所管部）検討する。
- ・学校教育の視点から、今後は子育てや学校教育に地域全体が関わっていくことの重要性が増してくると考える。60歳以上の方など、会社勤めを終えた方が教育現場や地域で活躍してもらう社会システムはまだない。総合戦略において、地域の人材を教育現場へという視点で掲載している箇所はあるか。
（所管部）教育現場に地域の方々をという視点で具体的な施策を記載している部分はないが、自治会を中心とした防災・防犯面、シルバー世代の活躍、一芸を持った方のノウハウの活用などについては、総合戦略でも記述しており、今後に対応が必要な施策であると考えている。
- ・基本目標Ⅱ個別目標１①「健康寿命の延伸を図る」では、地域包括ケアシステムの構築を進めている背景もあり、地域医療体制の充実については市立病院だけが担うものではないことに留意して記載すべきと考えるがいかがか。
（所管部）地域も含めてという意図で記載したつもりだが、表現の修正については検討する。
- ・基本目標Ⅳ個別目標１①「市内・全国にまちの魅力を発信する」について、女性目線の情報発信だけでなく、学生の視点も取り入れたらどうか。
（所管部）女性目線については、市民討議会で意見が出たものである。移住してくる場合、特に女性の支持を得ることが重要とのことで、記載している。市民目線でまちの魅力を発信していく点については記載しているが、本市は青山学院大学と包括連携を結んでいることもあり、学生さんの視点も重要であると考えている。
- ・人口ビジョンの数値は目標ではないと聞いているが、その点について教えてほしい。
（所管部）国は、長期ビジョンで示している合計特殊出生率2.07について、当初は「目標」する検討も行っていたようだが、最終的に「将来展望」とした。本市でも同様に「将来展望」と位置付けていきたい。
- ・これから県内市町村全ての人口ビジョンが出揃うが、県の人口ビジョンと相違が生じた場合、何か調整が行われるのか。
（所管部）県の情報では、各市町村の人口ビジョンと県ビジョンについては概ね整合が図れていると聞いており、問題ないものと捉えている。
- ・北中南の人口バランスの確保について、総合戦略上の施策は立地適正化計画の策定が中心となっているようだが、他の施策はどうか。
（所管部）本市における近年の人口の動向については、北部では上昇、南部は低下する傾向が見られ、「健康な人口」を達成していくためには、人口バランスの均衡が大切であると考えている。立地適正化計画の中で具体的に示していくとしているが、総合戦略では、子どもたちの声が市内のどこでも聞こえてくる環境づくりが重要と考える。近隣市町村から大和市に移住してくる方の割合が多いというデータがあるが、若い方々に本市に移住してもらい、そこで自然増を促していくという観点からも考えていかなければならない。総合戦略の中では、均衡的な人口バランスの必要性を提唱するに留め、細かい部分は立地適正化計画の策定過程で整理していくことになると考えている。

	・ 前述の人口バランスに関する表現について、総合戦略のどこかに記載が必要かと考える。また、関連する施策として、保育所の送迎ステーションについても必要ではなかと思うので、検討してもらいたい。 ・ 市として将来人口を示すものが、総合計画と今回の総合戦略とで二つ生じている。今後、学校などの施設整備に際して、二つの数値をどう扱うかが課題となるのではないか。 （所管部）二つの数値を持つことについては、取り扱いが難しいと考えている。今回の人口ビジョンの将来展望は、国のワークシートを使用している。あくまで、展望として取り扱うことになると考えている。 （関連部）立地適正化計画はミクロの視点で人口動態を見ていくものとなる。地域の色合いや違いを出して、中心拠点や生活圏ごとを単位としているので、学校施設の方向性も示していける。総合計画や総合戦略を下支えする個別計画として策定していきたいと考えている。 （所管部）次期総合計画を策定する場合には、国立社会保障・人口問題研究所の推計を参考にしながら、改めて人口推計を行う必要があると思うが、今回の総合戦略はあくまで、まち・ひと・しごと創生法に基づく将来展望であると理解している。 ・ 総合計画の人口推計は単なる推計だけでなく、こういうまちをつくりたいという意味も含んでいると思う。総合戦略と相反するという考え方ではなくて、将来展望に少しでも近づけていくものであるべきで、難しいとは思いますが、その点については、よく検討してほしい。 （所管部）承知した。しかし、政策人口は土地利用の動向が大きな要因となるが、今回の総合戦略にはその視点が入っていない。あくまでその考え方については分けなければならない。 ・ 今回の法律は、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが目的とのことで、市町村は国や県が策定した総合戦略を勘案して策定するよう求められている。目的を達成するためには、どういう手段を取るべきかが重要であり、本来は人口減少対策が目的のはずだが、国の目的は活力ある日本を作るという点にある印象がある。これで危機的に陥っている人口減少を避けることができるか、後世にならなければ分からない部分もあると思う。
会議結果	一部修正のうえ、進めていく。